

団長の独り言

9月11日(日)「壊して…また創る」

「久美・美容室物語板橋公演」の稽古が始まったのが8月6日(土)なので、あれからもう1か月！毎回欠席者なしの中で進んでいるので、順調って言えば順調なんだけど、課題ってものが、稽古を行う度に見つかるもので、やや焦り気味の中、昨日今日も集中した稽古を行った。前回の稽古では、最後のシーンまで行かず、事が出来たので、この日は再びシーン1からとなり、とりあえず、皆さんの好きないように演じてもらう。

ゆみさん(ますだゆみ)演じる「桃子」のテンポいい芝居から始まり、そのテンポに乗って、みっちゃん(鈴木美千代)演じる「久美」が華やかに登場し、しばらく小気味よい二人のやり取りが続き、あれよあれよという間にシーンは終わった。素晴らしい！「明日本番」って言っても通用する二人の息の合ったやり取りは、前回の赤坂公演の本番を彷彿させるが、一観客としてじっくり二人の芝居を冷静に観ると、その芝居に対して「違うなあって強く感じる自分がいた。

いえね別にいいんですよ、この芝居でも。テンポもいいし、二人の息もぴったりだし、楽しい雰囲気も伝わって来るし。だけど、その息の合はずぎるテンポのいい

芝居が、どこか段取り芝居となってしまっていて、その結果、セリフも「音」としてしか耳に入っていないという現象が起こる。それよりなにより、「なんでそんな芝居をしているの？」と思うようなセリフの捉え方となっていて、全く物語の中に入っていない。そこで、シーン1の芝居全てを変更してもらおうと、細かくダメを出していく。

ただ芝居全てを変更するって事は、前回公演で「よし」としてきた全てを壊すって事なので、当然ながら二人は戸惑っていたし、そもそも本番1か月前のこの時期に、大胆なダメを出すのも危険って言えば危険だとも思ったが、この二人ならば大丈夫だと思いい、思い切ってダメを出してみた。

すると実力派の二人は、私の出すダメの意図を理解して、戸惑いながらも演じると、最初のうちこそ身についてしまった。これまでの芝居が出てしまい、ギクシャクしていたけれど、「芝居を止めてダメを出す」ってのを繰り返していると、芝居が変化し始め、そんな二人を見守っている他のメンバー達の顔にも自然と笑顔が湧いてきていた。

うん！こっちのほうが全然いい。再演作品の稽古を行っている中、「なんで前回はあの芝居を良しとしたのかなあ？」と思う場面が何か所もあるもので、変更するのは、特に珍しい事でもなんでもないので、今回のようにひとつのシー

ン丸ごと壊して、全て創り直すという大胆なダメは初めての試み。

こうした作業に踏み切れたのも、私は二人の役者を完全に信頼しているし、また二人も私の事を信頼してくれているという確信があったから。

なかには、ちょっとでもダメを出すと反発心をむき出しにできて、「演出家と議論する事こそ正義！」という理念を振りかざし、稽古場でやたらと演出家に議論を吹っ掛けて、貴重な稽古時間を無駄に消費させてしまう役者もいる。

まあ、ね、色々な芝居の作り方もあるでしょうし、「納得出来るダメ出しじゃないか、一切演じられませんか」という考え方が正しい！って人もいますよね。

しかし、劇団ふあんハウスのこの二人は、そのようなタイプではないってのは分かっているし、彼女達の実力ならば、私が何を望んでいるのかも理解してくれると信じているので、このような稽古となった。

そもそも平野恒雄って役者も、自分が「黒！」って思っている、演出(もしくは監督)が「白！」って言えば、「分かります！じゃく白で！」って感じて、すぐさま考え方を切り替えてしまう。

「でも、しかし、だっ」は決して言わない。だから劇団ふあんハウスもそうあるべき！という一応のポリシーみたいなものは持っているけど、それが正しいのか？どうなのか？は、状況によって様々であるってのも理解している。

例えば、商業演劇や配給が大手の映画等では、大人の事情で、監督や演出よりもプロデューサーや出演者様のほうが断然偉い現場もあって、そんな時は監督もしくは演出家が「白」って言っても、大御所やアイドルスターちゃんが「黒がいいなあって言えば、「はあ、いい！じゃく黒でえ」となり、制作プロデューサーが演出意図と全然違う「黒！」と言えば、「白なんだけどなあ」と監督や演出家も思っても、「黒」にしなきゃいけない場合もあるみたい。

かくいう劇団ふあんハウスでも、24年間の活動の中で、何百回、いや？何千回も「しょうがないか…」って思って妥協してきた事はあるし、文句のような意見に耳を傾けつつ、役者の性格や実力に合わせて演出を曲げ、時に脚本すらも書き直してしまうって事は何度もある。

そんな劇団ふあんハウスではありませんが、今回は(も)、「まずはダメ出しの通りに演じよう！」という姿勢で皆が挑んでくれるので、遠慮なくダメ出しが出来る。そこで、そのシーンを終えてから、「ダメ出しの通った役者に対してのみ」、「どうか？」って、意見や感想等を聴く時間を設け、色々意見交換をし、お互いが納得したところで先へと進むのです。こうして進化する「久美・美容室物語」。どこまで進化するのか？次回の稽古も楽しみでしょうがない団長でありました。